

ロシアのウクライナ侵攻が始まってから、一年以上経ったが、戦火は収まらず、終わりが全く見えない。私たちに届く情報は、互いが自分たちに有利な情報を流しているの、正確なことは分からないというのが、実情ではないか。確かに言えることは、ロシアは「特別軍事作戦」と称して、軍事力で国境線を書き替えようとしていることである。21世紀にはあり得ないと思っていたことが、目の前で起こっている事実には驚愕する。

ロシアのプーチンは、クリミヤを制圧し、ロシア領土にした時のように、ウクライナを容易に支配し、ロシアに都合のよい政権を立てることができると思ったらしい。ところが、ゼレンスキー大統領のメッセージが国民を奮い立たせた。両国の軍事力は大人と子どもの差があると思われていたが、本土防衛の意志を高め、米国、西欧の支援を受けて、互角の戦争になっている。しかし、ウクライナでは、一万人近い一般市民が殺され、戦争犯罪と見られる残虐な拷問、殺害があった。命を支える電気、ガス、水道などのインフラが攻撃され、厳冬の寒さの中を耐えている。テレビ映像で見ると、建物はミサイルで破壊され、その建物の地下で、戦禍に怯えている。八百万人が戦禍を逃れて、外国に避難している。ウクライナ人のロシアへの憤りは幾世代にもわたって消え去ることはないだろう。戦争による死傷者はロシア、ウクライナ共に十万人を超えていると聞く。未来を背負う若者たちが無残に殺されている訳で、何とも残念である。戦争ほど、無益で悲惨なことはない。

旧ソビエトがアフガニスタンを侵攻した時、一万五千人ほどのソ連兵が戦死して、アフガニスタンから撤退した。今回、ロシアはその何倍もの戦死者を出していることは確かである。情報によると、刑務所に繋がれていた犯罪者や少数民族の人たちが、捨て駒のように使われ、多大な戦死者を出しているという。ロシアの人権感覚を疑う。

ロシアは、エネルギーと食料は豊富にあるらしいが、諸国からの経済制裁を受け、苦境にあることは間違いない。兵役、戦禍から逃れようと祖国を捨て、他国に移住している人が四百万人もいると聞く。国力は細るだろう。西バルカン諸国もEU（欧州連合）に参加を望んでおり、かつて、ソ連邦だった中央アジア諸国もロシアに背を向け始めている。ロシアを支持するのはイラン、北朝鮮など少数である。経済上の利益があるので侵攻に抗議しない国、また、意思表示しない国もある。戦争とは関りのない芸術やスポーツもロシアの参加は拒否され、世界からの孤立は避けられない状態にある。プーチンは今や、暗殺に脅え、自由に他国に行けない。今後、ウクライナ戦争がいつまで続くのか、また、どのように収まるのかは分からないが、ロシアの国際的評価は下がって行くばかりであろう。

他国への軍事侵略は認められない。この理念と事実を共有することで、世界に平和を構築していく道筋がある。日本は平和憲法を制定し、威嚇や戦争による国際紛争の解決を目指さないと決意した。戦後一貫して、専守防衛国として歩み、戦死者を一人も出さず、世界からも平和国家として認知されてきた。築き上げて来た非戦の財産は限りなく大きい。ロシアのウクライナの侵攻に対しても、人を殺す武器は送らず、人を守るヘルメットや防護服、発電機などを送っていることは、素晴らしく意味深い対応だと思う。

日本は、安倍政権の時、安保法制を決議し、戦争のできる国に変えた。現在の岸田政権は、ロシアのウクライナ侵攻を危機と感じてか、軍備費を国民総生産（GNP）の2%までに引き上げると閣議決定し、世界で四番目の軍事大国にしようとしている。軍事力の均衡が抑止力になると言うが、軍事では平和は創れない。中村哲氏の「自衛隊の派遣は有害無益で何の役にも立たない」との国会証言を聞き、非戦、平和を実現する国でありたい。